学校番号	105

令和３年度　地理歴史科

教科	地理歴史科	科目	日本史Ｂ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	詳説日本史Ｂ（山川出版社）						
副教材等	日本史のライブラリー（とうほう）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

この授業を通じて、歴史を主体的に学ぶという姿勢を持ってほしいと思います。
歴史を主体手に学ぶということは、科学的な歴史認識を習得し、それと現代との関わりを考えながら、それまで自分の持っていた知識を確認したり、訂正したりすることによって、豊かな未来を築いていくことです。

２　学習の到達目標

我が国の歴史の展開を諸資料に基づき、地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察し、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	日本の成り立ち、伝統や文化に関心を高め、国際社会の中で他国の文化を尊重し、かつ日本国民としての責務を果たそうとする。	我が国の形成の歴史的過程を正しく考察し、国際社会の変化を踏まえ、それをどう生かしていくべきか、適切に表現している。	中世から現代にかけての資料を収集し、適切に選択、まとめて、そこから読み取れる事実を明らかにする。	我が国の歴史過程と伝統文化の特色を正しく理解し、その知識を身につける。
評価方法	ワークシート レポート	定期考査 ワークシート （主題学習） レポート	定期考査 ワークシート	定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	武家社会の成長	1. 室町幕府の成立 2. 幕府の衰退と庶民の台頭 3. 室町文化 4. 戦国大名の登場	○ ○	 ○ ○ ○	○ ○	 ○ 	a: 建武の新政、室町幕府の成立と南北朝の動乱から戦国時代までの社会の変化や人々の生活、文化の特色に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。 b: 建武の新政、室町幕府の成立と南北朝の動乱から戦国時代までの社会の変化や人々の生活、文化に課題を見いだし、日本の諸地域の動向、東アジア世界との交流、庶民の台頭と関連付けて多面的・多角的に考察している。 c: 建武の新政、室町幕府の成立と南北朝の動乱から戦国時代までの社会の変化や人々の生活、文化に関する諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身につけるとともに、追究し考察した結果を適切に表現している。 d: 建武の新政、室町幕府の成立と南北朝の動乱から戦国時代までの社会の変化や人々の生活、文化についての基本的な事柄を、日本の諸地域の動向、東アジア世界との交流、庶民の台頭と関連付けて理解し、その知識を身につけている。	

	幕藩体制の確立	1. 織豊政権 2. 桃山文化 3. 幕藩体制の成立 4. 幕藩社会の構造	○ ○ ○ ○	 ○ 	 ○ ○ 	○ 	a: 織豊政権から幕藩体制の確立に至る統一過程や支配構造、さらには近世初期の文化に対して関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。 b: 織豊政権から幕藩体制の確立に至る統一過程や支配構造、さらには近世初期の文化から課題を見いだし、ヨーロッパ諸勢力との接触と鎖国による対外関係と関連付けて、多面的・多角的に考察している。 c: 織豊政権から幕藩体制の確立に至る統一過程や支配構造、さらには近世初期の文化に関する文献、絵画、地図の諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。 d: 織豊政権から幕藩体制の確立に至る統一過程や支配構造、さらには近世初期の文化についての基本的な事柄をヨーロッパ諸勢力との接触と鎖国による対外関係と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	

	幕藩体制の展開	1. 幕政の安定 2. 経済の発展 3. 元禄文化	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a: 文治政治への転換と幕政改革の断行、町人文化の形成の特質に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。 b: 文治政治への転換と幕政改革の断行、町人文化の形成の特質から課題を見いだし、欧米列強のアジアへの進出とその影響、その後の対外関係や支配構造の変化と関連付けて、多面的・多角的に考察している。 c: 文治政治への転換と幕政改革の断行、町人文化の形成の特質に関する文献、絵画、統計・グラフなどの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。 d: 文治政治への転換と幕政改革の断行、町人文化の形成の特質についての基本的な事柄を欧米列強のアジアへの進出とその影響、その後の対外関係や支配構造の変化と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	

二学期	幕藩体制の動揺	1. 幕政の改革 2. 宝暦･天明期の文化 3. 幕府の衰退と近代への道 4. 化政文化	 ○ ○	○ ○ 	 ○ ○	○ ○ 	a: 幕藩体制がしだいに動揺していく過程や蘭学・国学の普及、民衆文化の発展などに関心をもち、意欲的に追究しようとしている。 b: 幕府の改革についてそれぞれの特色をおさえつつ、幕藩体制の矛盾が表面化していく過程について考察し、適切に表現している。 c: 地域に残るお墓、義民伝説や地域にあった寺子屋など江戸時代の民衆の生活に関する諸資料を収集し、その社会や文化の特徴を読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d: 幕藩制度が安定するときの特徴を理解し、その知識を身に付けている。幕藩制度の矛盾の出現の理由を理解し、その知識を身に付けている。百姓一揆・打ちこわしの背景を理解し、その知識を身に付けている。幕府の改革の失敗の理由を理解し、その知識を身に付けている。異国船の接近が幕府にもたらした影響を理解し、その知識を身に付けている。	

	近代国家の成立	1. 開国と幕末の動乱 2. 明治維新と富国強兵 3. 立憲国家の成立と日清戦争 4. 日露戦争と国際関係 5. 近代産業の発展 6. 近代文化の発達	○ ○ ○	 ○ ○	 ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	a: 幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程について、課題意識を高め、意欲的に追究している。 b: 幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程について、課題を見いだし、世界史的背景と関連付けて多面的多角的に考察している。 c: 幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程に関する文献、統計などの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した結果を適切に表現している。 d: 幕藩体制の崩壊から中央集権的国家体制の成立にいたる過程について、基本的な事柄を、世界の動向と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	

	第一次世界大戦と日本	1. 第一次世界大戦と日本 2. ワシントン体制 3. 市民生活の変容と大衆文化 4. 恐慌の時代 5. 軍部の台頭 6. 第二次世界大戦	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	a: 第一次世界大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響や政党政治の成立と市民文化の形成に対する関心と現代に通じる課題意識を高め、意欲的に追究している。 b: 第一次世界大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響や政党政治の成立と市民文化の形成から課題を見いだし、世界の動向と関連付けて多面的多角的に考察している。 c: 第一次世界大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響や政党政治の成立と市民文化の形成に関する文献、映像、統計などの諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した結果を適切に表現している。 d: 第一次世界大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響や政党政治の成立と市民文化の形成についての基本的な事柄を、世界の動向と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	

三学期	占領下の日本	1. 占領と改革 2. 冷戦の開始と講和	○	○ ○		○ ○	a:ＧＨＱによる諸政策が、対日占領政策に基づくとともに、日本の国民の戦争に対する反省に支えられて実施されたことに気づけたか。 b:主権在民・平和主義・基本的人権の尊重の 3 原則を中心とする日本国憲法が制定された経緯と意味を、国民生活の状況も踏まえて考察できたか。 c:中華人民共和国の成立、朝鮮戦争の勃発に伴う占領政策の転換として、経済面では経済安定九原則、政治面では警察予備隊の新設に着目して考察できたか。 d:サンフランシスコ平和条約の調印による日本の主権回復の意義と、安全保障をアメリカに依存する日米安保条約の締結の意味を考察できたか。	

	高度成長の時代	1. 55 年体制 2. 経済復興から高度成長へ	 ○	○ ○	○ ○	 ○	a: 戦前と異なり戦後は国民が主人公になった時代であることや、戦後の社会の変化の大きさに関心をもち、意欲的に追究しようとしている。 b: 大日本帝国憲法体制と日本国憲法体制の根本的な違い、戦後日本がアメリカとの関連を強めていくことの問題点について考察し、適切に表現している。 c: 新聞や雑誌・漫画から戦前と戦後の変化を読み取ることができる。様々な史料から戦後日本を世界史のなかに位置付けて考察し、その特徴を読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d: 戦後の世界と日本の変化の過程を事実にもとづいて理解し、その知識を身に付けている。２１世紀の展望をもつ。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。